

10月といえば、だんじりですね。勇壮なお祭りにファンも多く、一気に鳳は盛りあがりました。



鳳は、毎年10月の大鳥大社（美波比神社）の秋祭り、だんじりを軸に一年があると言っても過言ではないほどの盛り上がりを見せます。6日の宵宮は各地区の自主曳行、7日の本宮では連合曳行。大鳥大社に宮入後、次々に熊野街道を駆け抜け、鳳駅前の交差点では商店街のアーケード内からだんじりが全力疾走して飛び出す光景は圧巻で、ファンが多く詰めかけます。8日の残宮では、昼間パレード、夜には後連合曳行が行われます。祭りの勇壮さは日本一、と私は思います。

【ニュース】

1. 診療日の変更をお知らせします（再掲示）。

10月6日（金曜日）7日（土曜日）は、恒例の大鳥美波比（みはい）神社のだんじりで、お休みをいただきました。恒例の行事で鳳のまちは活気にあふれましたね。

2. 骨そしょう症の検査の日程

10月はお休みですが11月は21日（火曜日）です

3. 市民講座（医師会主催）が開催されます

（テーマ：自宅に死を迎える）

日時：2017年11月29日（水曜日）14時30分～16時

場所：堺市西区役所ウエスティ 7F

3. インフルエンザワクチンについて

実施：平成29年10月21日（土）～平成30年3月末（助成期間は平成30年1月末まで）

当院での費用（自己負担額）は次のとおりです。

1) 堺市在住の65歳以上の方（接種日時点）

自己負担額 1,500円

2) 13歳から64歳以下の方および堺市外の65歳以上の方 → 接種回数1回

自己負担額 3,500円

3) 3歳から13歳未満の方 → 接種回数2回

1回目、2回目ともに 3,500円

なお対象の方で、市民税非課税の方は自己負担金が免除です（介護保険料納入通知書を窓口にご提示ください）。

【ミタクリ漢方のおはなし 増永静人先生のこと】



『精神という問題は、現在やかましくなってきた「病の中の人間」、医者と患者の人間関係、患者の社会的問題、そうした現代的な医療問題の根底に全て関連しているように思えるのである。』（経絡と指圧、昭和58年）増永静人先生は、1925年（大正14年）生、京都大学文学部哲学科を卒業後、指圧の世界に入られました。指圧学校の講師を務められ、「医王会」を主宰されていましたが、1981年（昭和56年）直腸癌のため逝去されました。まだ57歳の若さでした。私の父は予科（教養課程）終了後、本科（専門課程）に進む際に医師ではなく哲学

の道に進みたいと祖父母を困らせたという話をよく聞かされました。私が大学時代「そろそろ漢方勉強したいんやけど」と父に問うと、「医道の日本」という雑誌を持ってきて「坊主、これ読んどいたらええわ。」と増永先生の論文を渡されました。「増永先生はなあ、指圧の道で頑張っておられる。何よりも東洋医学の本質をみてはる先生や。」その内容に私は感動しました。東洋医学を学ぶ上では、科学的な視点はもちろん、そのベースとなる哲学を抜きにしては語れないことを知ったわけです。先日、聖路加の津田篤太郎先生が増永先生の事を取り上げられていて、私は医師として歩み始めた頃のことを思い出しました。私が卒業した1983年には先生はもうお亡くなりになっておられましたが、それまでの論文をまとめた「経絡と指圧」が出版され、私は喜々として何度も何度も読み返しました。ある日の外来で「先生、この間のお薬ほんとうによく効きました。ありがとうございました。」と患者さんが喜んで帰られたあと、父は私に「坊主、くすりはなあ、あんまり効かへんほうがあえねんで。」と、ぼそっとつぶやきました。その意味を理解するのに時間はかかりましたが、私の漢方の基礎はここにあります。「〇〇湯が驚くほどよく効く」ことも大事ですが、せっかく休息のきっかけとなる「症状」がでてるのに、むりやり消してすぐに仕事に向かわせることは本当にその人にとって正しいことなのか、を考えるきっかけを与えてくれた一冊でもあります。今、私は研修医一年目に戻ったように思えます。

【欣子先生の診察室だより】



この祭りの間に台湾へ行ってきました。4回目の台湾は、まちづくりの現場をみるツアー。いま台湾ではやりのリノベーション（古い建物を壊さず、新しい空間に作り直す）の現場をいくつか見学。そして台中では最近できたばかりという大学の先生がつくったコミュニティ密着型の高齢者・介護者向け+まちの保健室のようなカフェ「有本生活坊」（なんと企業から提供のあったAIロボットが対応してくれましたよ！）。いろんな企業とタイアップし、店の維持ができる仕組みをくっているのです。また、商店なんだけども誰も常駐してなくて、自分で計算してお金を入れて商品をもち帰るシステム（なんと家賃や光熱費などもすべて公開！）の誠実商店。置いている商品はその土地でとれたものや応援してあげたい手作り石鹸など。子供たちにうれしい駄菓子もあり、まちのみんながその店のお世話をしながら自然と元気になる仕組みです。最後は虹の村。そこはひとりのおじいちゃんが87歳から壁にカラフルな絵を描き始めたのがきっかけでその軍人村の一画は取り壊しを逃れ保存されることになったとのこと。いまや世界中から観光客が訪れる一大観光地になっているのです。いずれも行政や大企業がお金をつぎ込んでつくった箱モノではなく、最初は志を持った個人または一企業がぼつんと水に投げた石です。それが静かに波紋をおこすように周囲の共感を得て広がっていく様はこちらが元気をもらえました。

ベースとなる国民性はどうでしょう？台湾の人は親戚とも近所とも仲良く、週末には大勢で集まってBBQなど楽しむんだそうです。ひきこもりや孤立している人も少ないらしい。孫世代は頻りに祖父母のお家に訪れるので、台湾の高齢者は孫に教えてもらってiPadやスマホをつかひこなせるのだとか。なので世代間交流なんてあえて考える必要はないのです。参加者の一人が「おばあちゃんのところに行って、面白いんですか？私はいろいろとジャッジ（判断）されるから行きたくないわ！」と。うん、確かに。「いつ結婚するん？」「こどもはまだか？」「〇〇ちゃんは1部上場企業のご主人と結婚したで・・・」日本では確かに評価されますね。他人がどう思っているか、他人からどうみられるかを重要視しているよなあ。台湾は貧富の差が日本よりも格段に激しくて億ションだらけの町もあれば、まだ物乞いをするひともいるのですが、総じて“ストレスがない”らしい。心に余裕があるせいか、人に優しい。温泉や駅のコインロッカーでオロオロしていると親切に教えてくれます。それは多様な人種多様な価値観が入り混じっているけれど、他人に対してとても“寛容”な社会だからだと感じました。（もし、「孫たちが最近来ないなあ」と思ったらどんな態度で接していたか思い返してみてください 笑！）人が元気、まちも元気になるためのヒントは、他者に対する寛容性。なんか意外な結論ですが、どこかの国の首相が国民に「このような人たち」発言をしたり「排除」する党首がいたりをTVで連日みているからでしょうか？自戒の意味をこめて！ 笑

【外来担当医一覧 2017年10月現在】

予約電話番号：072-260-1601

診察受付時間	月	火	水	木	金	土
午前 (9:00-11:00)	巽/米本	三谷	巽/三谷	巽	巽/三谷	三谷
午後 (14:00-16:00)	巽(予約) 米本(訪問診療)	巽(訪問診療)	巽(予約)	巽(訪問診療)	巽(予約) 三谷(訪問診療)	
夜診 (16:30-18:30)		三谷	三谷		三谷	